

## 第4回 臨床研究セミナー 『臨床研究を着想し、発表しよう』

日本医療薬学会臨床研究推進委員会では、臨床研究を実践するためのノウハウを向上させ、医療薬学の進歩発展を図ることを目的に、臨床研究セミナーを企画しています。研究の視点をもつことは薬剤師にとって重要であり、各種専門薬剤師を目指す方にとっては学術要件が必要になります。

本セミナーでは、これまで3回にわたり薬局や一般病院の薬剤師、特に初学者向けに研究のきっかけをつかめるよう企画を進めてきました。第4回は、研究の着想に加えて、種々の研究手法と研究をまとめる際に気をつけるべき点についても考えたいと思います。初学者に限らず多くのご参加をお待ちしております。

開催日時 2024年4月14日(日) 13:00~17:00  
開催方法 ハイブリッド開催(事前参加登録必要)(オンデマンド配信はありません)  
現地会場「大崎ブライトコアホール」(<https://osaki-hall.jp/>)  
\*詳細が決まりましたら、HP等でお知らせいたします。  
主催 一般社団法人日本医療薬学会 臨床研究推進委員会  
対象 薬剤師、大学教員、薬学生、その他  
参加費 本学会会員 正会員 4,000円 学生会員 無料  
一般 社会人 6,000円 学生 2,000円

〈プログラム〉 司会：矢野 貴久(島根大学医学部附属病院薬剤部)  
開会挨拶(13:00~) 石井 伊都子(千葉大学医学部附属病院薬剤部)

特別講演1(13:05~13:55) 座長 鈴木 小夜(慶應義塾大学薬学部)  
奥田 千恵子(横浜薬科大学・客員教授)  
「日常業務を臨床研究へと発展させるには -その有意差、意味ありますか?-」

特別講演2(13:55~14:45) 座長 宮崎 長一郎(宮崎薬局)  
菊地 真実(帝京平成大学薬学部・教授)  
「質的研究とは? -数値化されていないデータをどう扱うのか-」

休憩(15分)

シンポジウム「医薬品適正使用のためのエビデンスの創出 ~私の実践例：苦労と工夫~」(15:00~16:55)  
座長 中村 任(大阪医科薬科大学薬学部)、山口 浩明(山形大学医学部附属病院薬剤部)

1. 小林 星太(かがやきクリニック / かがやき在宅診療所) 15:00-15:20  
「薬局薬剤師による論文執筆活動とその意義  
~在宅医療業務の実態調査から地域医療への貢献を発信する~」
2. 山田 峻史(旭川医科大学病院薬剤部) 15:20-15:40  
「病棟常駐薬剤師による医薬品適正使用の推進と治療効果の向上」
3. 白石 ちひろ(三重大学医学部附属病院薬剤部) 15:40-16:00  
「有害事象自発報告データベースを用いた研究 ~研究の着想から論文化まで~」
4. 鈴木 亮平(国立病院機構三重中央医療センター薬剤部) 16:00-16:20  
「日常業務から社会課題解決型エビデンスを創出する  
-薬・薬連携、地ケア・回りハの病棟業務、医療安全向上の取り組みをふまえて-」
5. 総合討論(16:20-16:55)

閉会挨拶(16:55~17:00) 矢野 育子(神戸大学医学部附属病院薬剤部)

認定単位：日本医療薬学会各専門薬剤師制度クレジット(5単位)

## 日本医療薬学会 第4回臨床研究セミナー 開催報告書

臨床研究推進委員会 前委員長 矢野育子

第4回臨床研究セミナー『臨床研究を着想し、発表しよう』を2024年4月14日(日)13:00-17:00に、ハイブリッド開催しました(現地会場:大崎ブライトコアホール)。今回は、研究の着想に加えて、種々の研究手法と研究をまとめる際に気をつけるべき点についても考えていただけるような企画としました。

前半は、特別講演1として、奥田千恵子先生(横浜薬科大学・客員教授)から「日常業務を臨床研究へと発展させるにはーその有意差、意味ありますか?ー」として、薬剤師による新たな取り組みの前後比較のような探索的研究では、記述統計で十分価値があり、無理にP値を求めるべきでないこと等について示唆に富んだお話をいただきました。また、特別講演2として菊地真実先生(帝京平成大学薬学部・教授)から「質的研究とは?ー数値化されていないデータをどう扱うのかー」として、量的研究と質的研究との関係、リサーチクエスチョンに基づく研究デザインの重要性、質的研究における分析法等についてご講演いただきました。

後半のシンポジウムでは、「医薬品適正使用のためのエビデンスの創出～私の実践例:苦労と工夫～」をテーマに、小林星太先生、山田峻史先生、白石ちひろ先生、鈴木亮平先生の4名からご自身の経験を踏まえた研究事例とその苦労・工夫についてお話いただきました。参加者からのアンケートでも若い先生方の熱い想いが伺えて薬剤師の明るい未来や可能性を実感することができた、一步を踏み出すことが大事とわかった等のご意見をいただきました。

セミナーには283名の事前登録があり、会場にも関係者を含めて50名弱の参加があり、会場やWEBからの質問も多く活気のあるセミナーとなりました。終了後の参加者からのアンケート結果では、約40%は過去の本セミナーの参加者で、病院薬剤師が80%、薬局薬剤師が10%でした。参加者の年代としては40代が最も多く、30代、50代、20代と続き、今後もハイブリッドで年度初めの開催を希望する意見が多数でした。

最後になりましたが、ご講演いただきました講師の先生方、企画や当日の運営にご協力いただきました石井前副会頭及び臨床研究推進委員会前委員、医療薬学会事務局の皆様には感謝申し上げます。本セミナーのさらなる発展を祈念し、次期の委員会にバトンをお渡しさせていただきます。